

# トンボのころ

第九号 二〇二二年八月号

配信 プリンティング委員会 / 発行 開発本部広報課

日本でも、企業と社員の関係は、バブル崩壊後20年で大きく様変わりしました。  
社員の自主判断を優先し、形式や伝統を極力排除するところがある

一方、必要以上に品格ある行動を要請するところもまだまだ多数あります。  
しかし、その中で、「心をひとつにして」「一丸となって」などの言

葉がスローガンになっている企業となると、今や少数派です。  
美咲工場若手社員の座談会からは、ドラマティックさよりも、仕事への情熱と、家庭的で、一枚岩と

言って良い数少ない企業の良さが、じわりと伝わってきます。控えめな表現になっていますが、率直な感想を聞いてみましょう。

## 変わることに、 変わらないこと

〜若い社員から見た  
美咲工場〜

創設40年を迎える美咲工場は、男性20名女性65名の計85名が働いています。平均年齢は約34歳。若い社員は殆どが地元出身。その7割が家族と同居しています。まさに、地元に根ざした工場と言えます。

親子ほど離れた社員同士が言葉を交わし、細かく、厳しく指摘する、良いことだけではなく、悪いこともはっきりと注意する。人間関係がドライになったと言われる昨今ですが、このような環境で育ちつつある若い社員に、座談会形式で聞いてみました。

Q入社して変わったことは何ですか？

Sさん（入社3年目）

何をしても、「お金がかかって」いることを意識するようになりました。管理係なので、他の人が行なう仕事のロス低減を考えるのは当たり前なのですが、自分がその仕事をするために費やす時間もまさに「お金」がかかっていると感じました。

学生時代アルバイトをしていた時に、ただ時間が過ぎれば良いと思っていたのとは大違い。時間、人、費用

用がかからない仕組み作りができるよう努力しています。

Hさん（入社5年目）

責任に対する意識が変わりました。学生時代は、休んでも、失敗しても自分が困るだけで、他人に迷惑をかけるなんて思いもしなかった。今は職場に迷惑をかけないように、気を引き締めて、自己管理しています。

Kさん（入社2年目）

今年配属が変わり、以前にも増して覚えるべき事が多くなりました。仕事が終わり帰ると疲れてなにも出来なくなるくらいに生活です。遊ぶことが生活だと思っていた学生時代と違い、上司に対する言葉遣いなど社会人としてのマナーを意識するようになりました。また、自分が何をすべきか判断できるようになり、そのために知っておくことを勉強する姿勢が自然に身につけてきたと思います。

Fさん（入社3年目）

先生に勧められて入社した訳ですが、仕事とは大変だとつくづく感じました。もう厭、辞めたいと思ったこともありましたが、まわりの人に相談出来たので、何とか続けることができました。先輩方の支えがあつて今の私があると思っています。

Q印象に残った出来事は？ トンボに入社して良かったこと、悪かったこと。

K: 何でも相談できる年長の先輩に出会ったこと（笑）

H: 一緒に入社した3名の内、一人が辞めたこと。1年目だったのにショックだった。

F: TTTは大変だったし、昼休みに集まるのは正直言って苦痛だったけれど、やって良かったと思う。まためるのが大変で苦労したけれど。（註: TTTは年に2回行われる）

それから、入社してから成人式に出席して皆に祝福されたのも思い出です。

K: この会社を辞めたら、次はこんな恵まれた環境じゃないと思います。

H: 今の職場で、人間関係に悩まなくて良いのが、とても救われます。経験豊かな先輩社員との定期的な話し合いの場があるので、私たちも長く勤められるように思います。

F: 私は困ったことは皆に相談する。そうするとなんだか気が晴れる。これからは私にも先輩が出来たので自分がしてもらったように入社したばかりの彼女たちを支えていきたい。

S: 仕事は大変だし、正直言ってこれまで何度も辞めたいと思ったことがあります。

昔、人前で、名指して自分の過失を指摘されたことがあります。思いもしなかったことにショックを受け、当然ながら自分に対する不甲斐なさやプレッシャーで押し潰されそうになりました。茫然自失で机に向かっていたら、周囲の皆がさりげなくフォローしてくれたのです。この時ああ、この人達は仲間なんだ、と僕を理解してくれて良いところも悪いところも受け入れてくれていたんだ、と気づき、折れた心に温かいものが込み上げ仲間意識を強く感じました。

それから、以前にも増して、事ある毎に声掛けし会話をするように心がけています。トンボは自分が定年退職する時にも今と変わりなく続いている会社だと思っています。人を指導する立場なので、わかりやすく指導するために、まず自分が知り、理解し、それを通して自分も成長しようという我が身に言い聞かせています。

Q: 仕事におけるやりがいとは何ですか？

S: 数字に出ない仕事だと思っています。やりがいは質にかかわります。

入社1年目は目標意識がありませんでしたが2年目からは目標の立て方から考えてみました。すると立案した計画通りに達成するために色々と考え、周囲に気を配るようになり、そうすると自ずと自分のすべきことが見えてきます。目標は数字の達成ですが、やりがいはその過程にあると実感しています。

## 変わらず 引きつがれる心



F: 私は縫製担当なので、自分の目標を達成出来たら仕事に対する自信はつきますが、班の縫製数量が目標なので、みんなで達成して良かったねといえる時にやりがいを感じます。やりがいは、目には見えないけれど、心でしっかりと感じることもないかと思っています。

K: 美咲工場は人数が少ないので、家庭的な職場です。皆、責任感が強くやり遂げる底力があると思います。TTTや提案制度が年に2回あり、リクリエーションなどの交流もあります。良好な人間関係に基づいた良い伝統が受け継がれていると思います。

H: 仕事はもちろん厳しいですが、途中退職者がこの2〜3年いないとか、普段は愛称で呼び合ったりできるといったことでもわかるように、社員同士の信頼関係で、工場がうまく回っている気がしています。

その前提は、先輩方が40年間変わらず小さな事からこつこつと積み上げてきた日々の改善や、頑なに守ってきた品質水準などがあるからですが、私たちが美咲工場というブランドイメージを壊さないよう、それに恥じない仕事をして、社内から信頼され続けたいと思っています。

